

C'est très bon! Vol. 137

Boulangerie
C'est TRÈS BON

～ おいっパンの通信 ～

2015. 10. 20
Kaori Onishi

日本を離れて一年以上が経ち、久しぶりに食べたトホンのバゲット
クワッ、サンどれもとてもおいしくて、パンはまた年書きのフランスパン
一生けん命偉いみんなの姿は、じょうれいなたです。みんなの成長が（ほんに）うれいなたです。
スイーツに身のまわりのもの。数箱のダンボールに本と服。それ以外はすべて整理してフランスに
来ました。私達は必要以上のものを持ちすぎているのだと思います。物があふれる整理する本棚や
場所も必要になり、もてもてと欲したる。ほんに必要なのはここギリなのだと思ひます。
女子きなもたけシングルに生きていきたと思ひています。知り合もいなく、この街でのせわからのアト
は決して楽ではありませんでした。精神的に苦しい世のため。フランスで生きることを決めて
ここにきておられたことは思ひます。トホンのみんなと離れたこともたし、おつと一緒にいたこと
だけ。今に満足することなくもて一生けん命に生きようと思ひたので。後悔ない生き方をしたい
と思ひたので。慣れた場所に居ることは安定して楽だけれど、たかうと言って幸せを感じる
ことはできなくていつかパンが疲れてしまうかもしれません。それよりも、先が見えて不安でも
自分の心の思ひを信じて、可能性を信じて一歩を踏み出し歩み出す方が苦痛はするだろう
けれど幸せに生きて思ひます。日本では店トブザあり、学校に教員に行けば「江アコ呼はれぬ
立場から、ここではうまく言葉を使えないハライと立場逆転して一番下の立場となり、今更
知らなうちに自分に身につけてしまっていたエゴや、一生けん命努力して悔しうまくできない
というこの気持ちも... たぶんここを改めて感じ学ばれた。日本にはほん日本しかいないけれど
フランスには個性も宗教も違う、いろんな国の人が芝に生きて、語学学校で芝に
学んだ経験はたぶん違いがあってもみんな合が合さる。パンと一緒になんたいうことでは
お互いの個性、違いを認め、それ以上自分の意見を主張する。相手を空にするのではなく、自分の
心を探るべきところがある。大切なことを学ばれた。数年前に何度も夢トを書いた
ことがありました。自分の夢を言葉にして書く。その実現のために必要な行動を書き出す
のです。その書いたトを後で見ると、いつも「ほぼ」その書いた通りになっていることにおどろき
ました。具体的にその夢を描くことでは「これは現実化するのだと思います。
しかし、そう簡単には細部が描けないはです。何年もその夢を思ひ続け、あきらめず
努力しようとする必要とさるからです。でも不思議だ。うぜんやってみて下さし
自分の心にある夢を描く。そのために必要な行動を書き出す。そして数年後たかう
ながめてみて下さし。きっとおどろきますよ。昔フランスで日本を仕事で行き来たことと思ひました。
フランスの土地をたれ、地方に暮らすパンのパートを書いたと思ひました。フランスパン職人として
生きて、この国のパン職人の人とも知り合「絆を深めたと思ひました。今の自分が今、目前
に現実としてあらわなうたっています。もし若い人に人生で大切なこと何一つ聞かしたる
次の3つを答へると思ひます。出会いを大切に縁を結ぶこと、笑顔で大切に
生きて、自分の心を磨く。

K.O.